

宗教部ニューズレター

宗教部の諸行事・活動に平素よりご協力を頂き感謝申し上げます。

教職員の諸兄姉、学生宗教委員のご尽力により、ニューズレター第2号を発行することができました。現在はクリスマスの季節ですが、今回は8月の「サマー聖書キャンプ」、10月の「後期キリスト教週間」の記事を中心に掲載しました。これらの行事・活動は既に学院 facebook でも公開しましたが、それとは違う角度から記事を作成しました。ご高覧の上、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

宗教部長 青野 和彦

★学生宗教委員会「HOPE」の活動紹介★

後期はキリ学祭・学生企画礼拝・クリスマス礼拝など、様々なイベントや特別礼拝が重なる時期です。学生宗教委員のメンバーだけでは手が回らないこともあります。学祭ではそれぞれの友だちや教職員の方々が導かれ準備に加わってくださり、無事フリーマーケットを成功させることができました。実習で保育科二年生不在の間は、他学科の学生・保育科一年生がツリー点灯式や学生企画礼拝を担当してくれました。それぞれが出来ることを少しずつ持ち寄り、良いものになるようにと働きかけていることをとても嬉しく思いました。昼休みには聖歌隊やミーティングでにぎやかなチャペル横の部屋も飾り付けをしクリスマスまでの準備を着々と進めています。

松下 訪子 (学生宗教委員長/保育科2年)



学生宗教委員会は、学園祭で、フリーマーケットを行い、収益金を愛隣園に寄付しました。



月曜礼拝 (聖歌隊)

● 12月2日はツリー点灯式が行われました。



約160名が参加しました。平和の願いを込めて、ツリーに赤いリボンを飾りました。

●サマー聖書キャンプ

2013年8月21日から3日間、本学の学生9名と教員2名に、福岡女学院大学の学生4名を迎えて、サマー聖書キャンプを行いました。

資料館巡りや今帰仁・北山荘での海水浴と宿泊を通して、学生たちが沖縄と福岡の文化や言葉について互いに学び合いながら、「イエス・キリストによる平和」の意味を考えた3日間でした。

沖縄サマー聖書キャンプに参加して



沖縄キリスト教学院大学

英語コミュニケーション学科1年 阿波根 昌孝

この3日間を通し、沖縄について知らないことが多すぎることを痛感させられ、県外のキリスト教大学同盟校から学びに来てくださる人達に対して、感謝の気持ちと、自分が生まれ育った場所について何も知らないという恥ずかしさを感じた。これからの平和を考えるためにも、この地で起きたことを後世に語り継ぐためにも、沖縄戦について調べ、祖父母からも話を聞いて沖縄について深く学んでいきたい。人まかせにするよりもまず自分が動かなければいけないと考えさせられる良い機会になった。

今回このキャンプに関わり、協力してくださった皆様に感謝し、沖縄について、平和について真剣に取り組んで行きたい。

沖縄サマー聖書キャンプに参加して



福岡女学院大学

人文学部現代文化学科4年 岡部久美子

私はこのキャンプを通して沖縄と基地が身近で、そのことが如何に危険なことであるかを改めて痛感した。今回、在日アメリカ軍の大型輸送ヘリコプターが墜落した沖縄国際大学を訪れた際に目にした墜落した当時のままの真っ黒に焼け焦げた一本の樹が今でも忘れられない。また、敷地内で耳にしたキーンという頭に響く鳴り止むことのない音。アメリカ軍普天間飛行場からの戦闘機のエンジンを調整する際の音だということを知った。平和に自由に学問をする場所である教育の現場である大学が基地と隣り合わせの状況であるという現状。さらに、数多くの住宅が基地の周辺に広がっている現状を目にして衝撃を受けた。そのような関係の中で、いつどこに墜落するかもしれないという安心できない気持ちを考えると如何ばかりかと思う。

「頭上を戦闘機が飛んでいる姿を見ると墜落するのではないかという不安がある、事故が起こる度にその気持ちが増す。また、アメリカ軍の基地に配備されたオスプレイのエンジン音は身体の中の内臓を掻き毟られているような何とも言えない不快な音がする。」という言葉を目にし、安全であるべき日常生活に命に関わる危険と背中合わせであることに基地の存在というものに強く疑問を感じた。この学びの中で心に響いた言葉がある。それは、本当の沖縄を知ること。今回、初めて目にした沖縄タイムス社の新聞だが、私が普段目にする新聞の情報よりも詳しく沖縄の現状が書かれていた。このような新聞にも目を通し見聞を深めなければ本当に沖縄を考えるということにはならないということを実感した。このような機会を再び与えて頂いたこと本当に感謝申し上げます。再度沖縄を訪れた際には今回案内して下さった所へもう一度足を運び、さらに見聞を深めたいと思っております。本当にありがとうございました。

★★★2013 年度後期キリスト教週間プログラム★★★

(10月28日～11月1日)

10月28日(月): 月曜礼拝
10月29日(火): Discovering the Bible
10月30日(水): 教職員・学生ランチョン(昼食会)
10月31日(木): キリスト教講演会
11月1日(金): DVD上映会「ペイ フォワード」

ーキリスト教講演会についてー

テーマ: 「周縁化されることとすることー戦争と差別」(エフェソ 2: 14-16)

【沖縄キリスト教大学講演要旨】

10月31日(木) 4時限目に福岡女学院大学院長・学長の木ノ脇悦郎先生より標題の講演を拝聴しました。木ノ脇先生は、奄美と沖縄の歴史と琉球文化、キリスト教史における周縁化の例、聖書テキストからのメッセージ、という3つの点からテーマにアプローチされました。

先生は主に1の項目、つまりご自分の出身地でもある奄美が沖縄県と鹿児島県の狭間にあって歴史的に周縁化された事実を、琉球王朝時代の尚氏による奄美侵略と支配から太平洋戦争後までの事例を挙げながら丁寧に説明されました。奄美の視点から見ると、沖縄は江戸時代の薩摩藩や明治以後の日本政府によって周縁化「される」側だけではなく、それを「する」主体でもあった事実が判ります。続いて、オランダのキリスト教史におけるキリスト教少数派に対する周縁化の事例、つまり信教の自由を求めてオランダへ亡命した改革派が自分たちの信仰をアルミニウス派(予定説に反対したグループ)の人々に押し付けるドルトレヒト教会会議の矛盾を紹介されました。最後に、聖書から「善いサマリア人の譬え」(ルカ 10: 25-37)を引用され、イエスがユダヤ社会で周縁化された人々の側に立ったように、キリスト教会も愛と寛容そして一致による新しい人間関係を指し示す共同体となるべきことを指摘されました。

キリストに示された「平和」を希求し、「隣人愛」と「奉仕」を教育の基盤として建学された本学のスピリットを再確認する意味で、本講演は実に教唆に富むものであったと確信します。今後、国内外において様々な種類の少数者(マイノリティ)を「周縁化」し続けてゆけば、不当な差別が拡大し、真に平和な世界の建設は不可能になることでしょう。それを回避するために、複眼的な視点を持つことの大切さも学んだ講演でありました。

報告者 宗教部長 青野 和彦



講師: 福岡女学院大学学長 木ノ脇 悦郎 先生

「キリスト教の紹介②ークリスマスツリーって何か知っていますか？」

宗教部長 青野 和彦

クリスマスのこの時期、私たちに一番馴染み深いキャラクターはサンタクロース（3～4世紀の小アジアのニコラウス司教が原型）、そして最も定番の装飾品はクリスマスツリーでしょう。

では、クリスマスツリーはいつ頃からキリスト教圏で飾られていたかご存知ですか。ドイツの新約聖書学者オスカー・クルマンの著書『クリスマスの起源』（1990年）によると、すでに4世紀のシリアにおいて1月6日（当時、ローマ帝国の東部の教会では1月5日～6日にキリストの誕生が祝われていた！）家々が花輪で飾られていたそうです。そして、時をずっと経て、16世紀のドイツのシュレットシュタートの同業者組合の集会所においてモミの木が飾られたと言われています。諸説はありますが、それがツリーの起源ではないかと考えられます。

では、ツリーはどんな意味を持っているのでしょうか。特に興味深いのは前記の集会所につるされたモミの木に、リンゴとホスティア（教会の聖餐式用のパン）が飾られていたことです。リンゴは「創世記」3章に登場する「誘惑の木（善悪の知識の木）」を、ホスティアはキリストの体を象徴するものと考えられています。ドイツでは17世紀になって集会所だけではなく、教会や家庭にもツリーが飾られるようになりました。人々はその時、ツリーにつるされたリンゴを見て、誘惑による人間の罪の大きさを思うのと同時に、ホスティアを見て、その罪をゆるすために十字架で自らの生命を捧げたキリストの愛の深さも悟ったのでした。よく観察すると、ここには二組の異なるものが対置されていることが判ります。つまり、「人間を死へと導くリンゴ」と「命を与えるパン」、そして「人間を死に導いた誘惑の木」と「人間に命を与える木＝十字架」です。この対置を通して、クリスマスツリーは人類の罪をゆるすためにキリストとなって世界に降りて下さった「神の愛」を象徴していることが明らかになります。

さらに時を経て、ホスティアは「クリスマス・クッキー」と変わり、ツリーはイルミネーション、サンタクロースの人形、星などで美しく飾られるようになりました。是非、皆さんもご家庭のツリーを楽しく飾ってみて下さい。その時、先に紹介したツリーの意味も思い出して頂くと幸いです。



「クリスマス礼拝・祝会」について御案内♪

冬休みも間近ですね。今年最後の学生生活のよい思い出づくりに、本学で行われる毎年恒例のクリスマス礼拝・祝会の参加をお待ちしています。

日 時：12月20日（金）

礼拝/18:00～19:20 場所:仲里朝章記念チャペル

* 献金をご用意ください。

祝会/19:30～21:00 場所:体育館

* 軽食が出ますが一品持ち寄りも歓迎します。

★宗教部ニュースレターについての

問い合わせ等は下記まで

沖縄キリスト教学院 宗教部

発行：2013年12月

(098-946-4152 / shukyobu@oc.jc.ac.jp)